

# 読書教育重点校活動報告

平成23年3月30日 益城町立飯野小学校



本年度から次年度にかけ、本校は県教育会館より「読書教育重点校」の助成を受け、読書教育の充実を図っています。22年度は、①魅力ある図書館となるような蔵書整備や環境設営、②図書委員会活動の活性化、図書館行事の充実、③読書に親しむ態度と読書習慣の育成のための、地域・家庭連携の推進の3点に力を入れて取り組んできました。

## 1 読書への関心を高めるための読書環境の整備 ～魅力ある図書館づくり～

### 【図書館プランナーの活用】

これまで十分にできなかった蔵書点検を、年度当初に実施しました。同時に、図書館プランナーの指導と協力を得て、図書館を使いやすく、魅力ある場所にするために、書架・机椅子のレイアウト変え、壁面やコーナーの模様替えなどをして大改造をしました。



### 【「絵本の森」コーナー】

児童が入ってみたいくなるように飾り付けを工夫し、読みたい絵本が手に取りやすいようにした「絵本の森」コーナーを作りました。中にはマットを敷き、ゆっくり絵本の世界に浸ることができます。定期的に、時節や学習に応じた配架や飾りつけをしました。



### 【学級文庫の効果的な活用】

授業で学習した内容に関連した本が、すぐ読めるように、担任からの要望に応じて、特設の学級文庫を設けました。例えば「三年とうげ」では、世界の民話を地図とともに置くことで、読書への興味関心を高め、読書の幅を広げるとともに図書館での読書につながり効果が見られました。

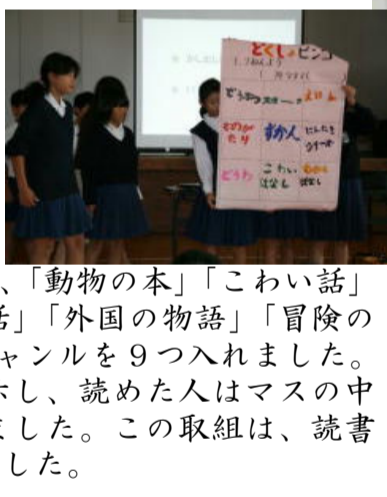


## 2 図書委員会活動の活性化 ～図書館行事の充実～

【目標貸し出し冊数の設定】月ごとに、各学級で「図書貸し出し目標冊数」を決めてもらい、表にして、図書館入り口に掲示しました。目標を達成しようと、各学級ともたくさん本を読もうと、一人一人の目標も決めて読書に取り組んでいました。

### 【読書ビンゴ】

11月には「読書ビンゴ」に取り組みました。児童集会で、プロジェクターと拡大カードを使い、やり方の説明をしてから、実施してもらいました。個人カードは低、中、高学年に分け、マスの中には、「動物の本」「こわい話」「伝記」「科学の本」「昔話」「外国の物語」「冒険の物語」等、学年に応じたジャンルを9つ入れました。廊下には拡大カードを掲示し、読めた人はマスの中にシールを貼るようにしました。この取組は、読書の幅を広げるのに役立ちました。



### 【昼休み大型絵本の読み聞かせ】

12月は町図書館から借りた大型絵本の読み着させを行いました。図書委員は、低学年向きと高学年向きの絵本を選び、練習を重ね、昼休みに読み聞かせをしました。図書委員は自主的に活動ができ、聞く児童も多く集まったので、「もっと楽しい図書館にしたい」という図書委員の意欲も更に高まりました。



【おすすめ図書の紹介】図書委員がそれぞれのおすすめの本を紹介しました。1学期はカードに書いて本のある書架に掲示、2学期は児童集会で本を見せながら、3学期は校内放送で本の一部を読んで紹介しました。紹介の仕方も次第に慣れて、上手になりました。

## 3 家庭・地域連携の推進 ～読書習慣の育成～

### 【飯野「おはなし会」】

地域の方々と保護者による読み聞かせボランティア「飯野『おはなし会』」の活動は、来年で7年目を迎えます。15名の方々が交代で、毎週木曜の朝自習時間（10分間）に各学級にきて絵本を読みに聞かせをしてくださいます。子どもたちは毎週楽しみにしています。



### 【家族「ふれあい読書」のすすめ】

家庭での読書習慣をすすめるために、2月の学習発表会で、啓発のたした。これを踏まえて3月には「ふれあい読書カード」を配布し、親子で家庭読書に取り組みました。親子で同じ本を楽しく読んだり、いろいろな本を読んで読書の楽しみを見つれたりできました。

(おうちの方から)本を読む習慣は前からあり、親子で別の本を読む時間はありました。いつもよりたくさん本をかりてきたように思います。



本年度の取組によって、図書室の本を全く読んでいなかった児童がいなくなったり、いろいろなジャンルの本を読む読む傾向があらわれたりする等、読書の傾向に変化が見られるようになりました。また、家庭での読書時間の平均は、昨年度1日に0～30分でしたが、今年度は30～60分に増加してきています。読書の習慣がなかった児童も30分未満ではありますが、日々継続の努力をしています。家庭読書の協力も徐々に広まっています。来年度は、読書量の個人差をさらに少なくするように取組を充実させていきます。